

ええんはええ!
頑張っている学校園
紹介します

大阪府教育委員会

**ココロ
BOOK
2024**

KOKORO BOOK 2024

こころBOOKとは？

こころBOOKに掲載されている学校園は、令和5年度「こころの再生」府民運動@スクール表彰で表彰された学校です。頑張っている子どもたちの取組みをみなさんに伝えることで、幼稚園をはじめとする各学校園での生活がこころ豊かになることを期待しています。ぜひ、思いやりや交流につながる活動に積極的に取り組んでください！

《 CONTENTS 》

府立阿武野高等学校……3 府立西野田工科高等学校……4 府立野崎高等学校……5

《 SDGs部門 》

府立生野聴覚支援学校……7 好文学園女子高等学校……8
府立泉北高等学校……9 府立守口支援学校……10

「こころの再生」府民運動とは？

大阪府・大阪府教育委員会が推進している、大切な「こころ」を見つめ直し、今日からでもできる身近な取組み(7つのアクション)を呼びかける運動です。

大切な「こころ」例えば…

5つのこころ

いのち
生命を大切に

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

7つのアクション



「あかんもんはあかん」と
はっきり **しかろう**



「ええもんはええ」と
はっきり **ほめよう**



「ユーモア」を
大切にしよう



「あいさつ」を
もっと大切にしよう



「おかげさんで」
をもっと大切にしよう



子どもの話をじっくり
聞こう



地域にどんどん
出ていこう

「こころの再生」グッズ

※のぼり・ピブスは希望のあった学校全てに配っています

ポスター

「こころの再生」府民運動
推進月間の11月には、
駅などにも貼りだします



ピブス

ショッキングピンク!これを着れ
ば明るい気持ちになれるかも?
交差点でもめだちます



のぼり

優しいもも色
元気にあいさつをする
ことを意識してみよう



保護者の皆さまへ

7つのアクションの中の1つに「子どもの話をじっくり聞こう」があります。子どもをはっきりと「ほめる」「しかる」ためには、まずは子どもの話をじっくり聞くことが重要です。また、子どもと「ユーモア」を共有する、「おはよう」とあいさつをする、地域と交流する、「おかげさんで」と感謝の気持ちを伝えるなど、全てのコミュニケーションに「話を聞く」ことは不可欠です。「こころの再生」府民運動では、「子どもの話をじっくり聞こう」のような、日常では忘れてしまいがちな大切なことを伝え、できることから取り組むことを呼びかけています。「こころの再生」府民運動ホームページを訪れていただき、大切な「こころ」について考えるきっかけにいただければ幸いです。

「バブリーダンス」で注目を浴びた
登美丘高校の
ダンス部キャプテンを経て、
TVで大活躍!!

伊原六花さんから こころのメッセージ



◎伊原六花さんの中学生時代

中学生のころは、ダンスをやっていたこともあり、人前に出て何かをするのが好きなタイプでした。学級委員をやってみたり、卒業式の答辞が読みたくて実行委員会に入り答辞を読ませてもらったり、あとは応援団長をやったりしました。

進路選択では、最初どこの高校に行けばいいかもわからず、勉強もどこまで頑張ればいいのか、モチベーションもないままでした。ダンス部のある高校を考えていたのですが、たまたま担任の先生に登美丘高校のダンスの映像を見せてもらったら、ダンスだけというよりショーのように見せる感じのダンスだったので、これが学校でできるならすごいカッコいいかと思いました。それまでは、どうしようかなと悩んでいたのですが、それを見てからは登美丘高校にしようと思い勉強を始めました。

◎高校のダンス部での経験

普段、ダンス部の大会に出場するメンバーを決めるオーディションは、コーチがダンスを見てメンバーが決まるのですが、1回だけ日頃の練習姿勢や成長率を基準にメンバーを決めたことがあり、そのオーディションで私はメンバーに選ばれませんでした。元々私はダンスをやっていて、高校からダンスを始めた人より、振り付けを覚えるのも早く、できることも多かったと思います。なので、オーディションに向けて練習する姿勢に甘えがあったのかなと、そのときは思いました。人生で初めて1人で残り、学校でも学校以外でも踊り続けて、動画を撮って練習をし、追加オーディションで何とかメンバーに入ることができました。その経験が転機となって、誰も見ていないところで努力することに、ちゃんと意味があるんだと思えるようになりました。

◎最後は自分で決める

高校時代の部活動は、周りから見ると結構大変だったんじゃないかと言われる。でも、自分では何か厳しいことをやっている、努力している、とは思ってなくて、ただ好きだからやっていたという感じです。

いろいろな考え方があって、無理をしてまでやることなのかという考えもすぐわかります。ただ、私は部活をずっと続けてきたから得られた経験や今の仕事があるので、一概にどっちが正しいというのは言えないと思うんですが、どちらを選ぶにしても、最後は自分で決めることが大事だと思います。もしも、その判断を人任せにしたら、もっとうまくいったかもと人のせいにしちゃう気がして、結局どちらを選んだとしても、自分で決めていればどちらも正解だと思うんです。自分の心が苦しかったら逃げてもいいと思うし、それでも頑張って踏ん張って見える世界ももちろんあるので、その最終の判断だけは自分ですると後悔しないんじゃないかと思います。

◎中学生に向けてメッセージ

「好き」という気持ちが一番強いと思います。これからの時代、周りと違って好きなものは好きって言える環境がどんどん増えてくると思うので、何かわくわくすると思ったことを大事にしてほしいです。例えば、泥団子を作るとわくわくするとか、本を読んで好きだなと思った言葉を書くのが好きとか、ちょっとしたことでもそれが続いていると、どんどん選択肢が広がって大きくなっていく気がするので、ちょっとした好きなことを大事にとっておいてほしいと思います。



プロフィール

伊原 六花

FOSTER所属

生年月日 … 1999年6月2日

出身地 …… 大阪

2004～ … バレエ、ダンス

2015 …… 大阪府立登美丘高等学校 ダンス部

府立阿武野高等学校

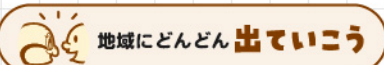
住所 〒569-1141
高槻市氷室町3-38-1

◎学校紹介

大阪府立阿武野高校は、全日制普通科の学校で、2年次より文系、理系、スポーツ専門コース、福祉・保育専門コースを選択することができ、多様な進路に対応しています。知的障がい生徒自立支援コースを設置し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進しています。さらに、地域交流や国際交流をとおして人と出会い、自分の可能性を広げていくことができます。「つながり」「ぬくもり」を大切に、生徒が主役の「ときめき」あふれる学校です。



◎取組み紹介



5つのところ

いのち 生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

地域とつながる

～地域のまつりをサポート～

本校は、地域の一員として地域の活動に積極的に参加しています。その中でも、富田フェスティバルと中阿武野秋フェスの2つのまつりには、10年以上の関わりがあります。

地域のまつりでは、生徒の出演だけでなく地域の方々とともに準備や運営にも関わり、まつりをサポートし、盛り上げています。また、今年度は新たに南平台校区秋まつりの運営にも阿武野高校に白羽の矢が立ち、まつりをサポートしました。

各まつりでは、生徒会による全体司会や、ダンス部、軽音楽部、吹奏楽部のパフォーマンスなどを行いました。富田フェスティバルでは、美術部が横断幕を作成し、書道部が作成した書を地域の小中学校や団体へ贈呈しました。中阿武野秋フェスでは、美術部が全体看板を作成し、まんが・イラスト部が作品を出品したり、各ブースのポスターを作成したりしました。

どのまつりも生徒の活躍で大いに盛り上がり、まつりに参加する同級生の活動を見たり知ったりすることで、生徒たちが地域活動に興味を持つ機会となっています。



地域のおまつりに出演したりお手伝いしたりできるのは、地域とのつながりを感じられて良かったです。

自分の住んでいる地域で活躍することができてうれしかったです。普段は関わることのない方々と交流することができ、貴重な経験になりました。



ぬくもり

つながり

ときめき

初めての参加で緊張しましたが、運営の方や地域の方がとても温かく接してくださり、楽しく参加することができました。



◎学校紹介

令和5年度に創立116年を迎えた工科高校です。普通教科だけでなく、専門教科の学習や実習を通して「ものづくり」の楽しさや場所を知ることができます。機械系、電気系、建築都市工学系、工業デザイン系の4つの系があり、それぞれの専門系にわかれて技術・技能を学びます。ものづくり、資格取得、クラブ活動、校内プロジェクトなどを通じて「輝く自分の将来を見つける」生徒を育てています。



◎取組み紹介

 「あいさつ」をもっと大切にしよう

5つのところ

いのち
生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

近隣小学校でのあいさつ運動

～おはようからはじまる人とのつながり～

本校では、校内でのあいさつ運動が定着してきたこともあり、地域の方々とのつながりを目標に、大阪市立大開小学校でのあいさつ運動を行いました。

生徒たちは、「こころの再生」府民運動のビブスを着用し、のぼりを掲げて元気に小学生とあいさつを交わっています。また、学校の近くには信号機のない交差点があり、生徒たちが児童の登校の安全にも貢献できる活動になっています。

取組みを通じて、生徒と児童のつながりを築くことができ、今後は小学校児童会との合同あいさつ運動を企画しています。これからも取組みを通して、気持ちの良いあいさつを交わす環境づくりと、自らあいさつのできる児童生徒の育成に取り組み、人と人とのつながりを育てていきます。



あいさつ運動は校内でも行っています。朝の校門では元気のいいあいさつが飛び交っています。

小学生から返ってくる大きなあいさつでよりいっそう頑張れました。こころを通わす気持ちの良いあいさつから始まる一日は最高です。

サツマイモ秋の大収穫祭

本校では、実習の一環で水耕栽培の研究のために屋上にてサツマイモを育てていました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ここ数年は実施しませんでした。しかし、ようやく今年度より再開することができました。地域連携として、大阪市立大開小学校の児童を招待し、秋の大収穫祭を行いました。イモの出来栄は大小さまざまでしたが、収穫して喜んでいる姿や大きな虫との遭遇に大声ではしゃぐ姿が印象的で、取り組んできたかがありました。子どもたちの笑顔が広がるこの活動を続けていきます。



あいさつ運動のほかにも、水耕栽培で育てたサツマイモで秋の大収穫祭を企画しました。小学生の笑顔で元気をいっぱいもらいました。

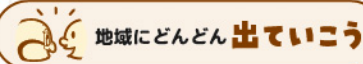
◎学校紹介

野崎高校は、昭和51(1976)年に創立された第100番めの府立高校(全日制普通科)で、来年度、創立50周年を迎えます。

校訓「自律・自主・創造」を体現する生徒を育てています。生徒一人ひとりを大切にす学校、地域に愛され、信頼される学校として、生徒や保護者の期待に応える学校となることをめざします。生徒全員が「夢を見つける!夢をかなえる!」ことができるよう、教職員がいつも一人ひとりに寄り添い応援します。



◎取組み紹介



5つのところ

いのち 生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

人と人との交流

～野崎GARDEN大地の恵み～

野崎高校の正門を抜けると、そこには野崎GARDENが広がっています。季節の花(ビオラ等)・野菜・ハーブ等、色とりどりの花や、畑にはさつまいもの葉が青々と生い茂ります。正門から玄関まで続く長い通路脇の花壇は、毎年2回、生徒・PTA・教職員共同で花の植え替えを行っています。この時間は、下校の時に通りかかった生徒も自然と参加する、和やかな時間です。

文化祭では、校庭の草花を乾燥させ、サシェ(香り袋)とキャンドルを制作し販売しました。また、収穫したハーブを使って、来校された地域の方とハンドクリームのワークショップを行うなど、野崎GARDEN大地の恵みは、人と人との交流につながっています。



普段喋らない子とも「ニコに捨てていいよ～」などと助け合って花の植え替えができて楽しかった。草むしりは何度繰り返して生えてくる。大変だった。

●文化祭で制作し販売したものをお客様に買ってもらえて嬉しかった。
●試作で作ったハンドクリームも家族が喜んでくれて嬉しかった。



感謝の気持ちを伝える

「大東キャンドルナイト」

今年で10周年を迎える大東キャンドルナイト。JR住道駅前の末広公園に、大東市内の学校や保育園の子どもたちが、思い思いに「感謝」の言葉をカップに描き、その一つ一つにLEDキャンドルが灯されます。野崎高校では、毎年、全校生徒がこのキャンドル作成に参加し、日ごろは言えない感謝の思いをカップに載せ、ほのかな光を灯しています。



お母さんに「いつもありがとう」と書いた。



令和4年度から

「こころの再生」府民運動@スクール表彰にSDGs部門を設けました！この部門では、SDGsに取り組む大阪府内の学校を掲載しています。これからの未来を担う子どもたちが自分たちにできることは何なのかを真剣に考えています。未来をよりよくしていくために複雑な社会の課題に向き合い、ときにユーモアのあるアイデアもおりませながら解決を図っています。そこに共通してある「こころ」は、相手の立場になって理解しようとする事、その上で自分たちにできる解決方法を考える事、そして実際に行動してみる事です。さあ、みなさんも自分たちにできることから始めてみませんか。

「こころの再生」府民運動@スクール表彰

SDGs 部門

表彰校

府立生野聴覚支援学校	7	好文学園女子高等学校	8
府立泉北高等学校	9	府立守口支援学校	10

SDGs (持続可能な開発目標)とは？

SDGsとは、すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決をめざします。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

(出典：国際連合広報センターホームページ)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◎学校紹介

幼稚部、小学部、中学部の幼児児童生徒が、広い校区から毎日元気に通学しています。

周りの人と関わろうとする力、個に応じた言語力や学力の育成を積み重ね、将来の社会参加・自立に向けて教育活動を進めています。また、早期教育相談や通級指導教室、地域支援を通して、地域で学ぶ聴覚障がいのある子どもたちの学びを支援しています。



◎取組み紹介 「おかげさんで」をもっと大切にしよう

5つのところ

いのち
生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

みんなで取り組む国際貢献

本校では、生徒たちが国際貢献について学習する中で、実際に自分たちができることを考え、ペットボトルキャップ回収に取り組みました。どのような仕組みで支援の必要な国にワクチンを送るのかを説明するポスターを作成したことで、たくさんのペットボトルキャップが集まりました。その他にも、支援の必要な国に絵本を送る活動にも取り組みました。

どちらの活動も、参加した子どもたちから周りの大人まで協力して取り組み、国際社会に関心をもつきっかけとなりました。



ペットボトルキャップを回収業者団体まで運ぶのは大変だったけど、多くの人たちがペットボトルキャップを持ってきてくれて嬉しかった。

小学部と中学部の 合同あいさつ運動

小学部の児童会と中学部の生徒会が合同で、朝のあいさつ運動を実施しています。8時半から9時の間、登校してくる児童生徒と元気よく「おはようございます!」と言葉や手話を用いてあいさつを交わしています。少し恥ずかしがりながらも、楽しそうにコミュニケーションをとっている姿が見られます。



親がボランティアの経験をしていて、私もそのような活動をやってみたいと考えたから、あいさつ運動に参加しました。

◎学校紹介

「やればできるは魔法の言葉、自分サイズの未来を拓く、チャンスメーカー好文学園」

3エリア×3コースの多彩な学びが特徴です。「生徒全員の個性と可能性を最大限に輝かせたい」。それが好文学園の思いです。同じ目標を志す仲間が存在も、大きな支えとなるでしょう。すてきな女性になるために、品位や礼儀作法、無駄のない合理的な立居振舞を身につけるために「小笠原流礼法」を授業に取り入れています。



◎取組み紹介 地域にどんどん出ていこう

5つのところ

いのち 生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

校外清掃(地域清掃)

本校で15年間続く校外清掃は、生徒会の美化委員による地域のゴミ拾いから始まりました。活動を続けていく中で、部活動のほか各クラスの生徒が参加する活動へと広がり、今に至ります。現在は、放課後に各クラスから生徒が参加し、年間100回前後、季節によっては暑い日も寒い日もありますが、教員とともに地域のごみ拾いを行っています。また長期休業期間中も、部活動の生徒たちで実施しています。地域のみなさまからは「ありがとう」「良い取組みだね」など感謝や応援の言葉を頂き、生徒たちもやりがいを感じています。また令和元年には国土交通大臣様より感謝状を頂きました。積極的に通学路の清掃活動を行うことによって、生徒たちのゴミや環境への意識を高めるとともに、多くのゴミを集めたという達成感もあり、地域の環境美化活動にも貢献しています。地域に支えられ地域の為に役立つ喜びを感じて、地域への愛着を深めていきたいです。今後も思いやりの心を育み、人の役に立つ素晴らしさを知ってもらうため、健やかな心を育むボランティア活動として継続していきます。



校外清掃を通じて、地域貢献ができてとても良かったです。

普段何気なく歩いている道に意外とゴミが落ちているんだなと気づきました。

近隣の人から「ありがとう」と声をかけられたりしてとても嬉しいです。



◎ 学校紹介

本校は、コミュニケーションツールとしての英語運用能力や情報機器の活用技術の向上をめざすとともに、海外研修、長期・短期海外留学等を積極的に行い、豊かな国際感覚を育てています。また、大学や地域と連携した『課題研究（必修）』等で科学的思考力、協調性、プレゼンテーション力等、グローバル時代に必要な能力や態度を育みます。部活動も盛んで多くの生徒が活躍しています。



◎ 取組み紹介

 「ユーモア」を大切にしよう

5つのところ

いのち
生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

ナッジ※を利用した ペットボトルの分別状況の改善

本校では、国際文化科の総合的な探究の時間（探究活動）において、ナッジを利用して校内のペットボトル分別回収の改善に取り組みました。

取組みでは、ナッジを利用した2種類の作戦を考え、それらの組み合わせで分別の意識や行動に変化があるかを調べました。

作戦①「みんなしてんで大作戦」、中身の見えるゴミ箱を設置し、ゴミ箱の中にキャップとラベルを剥がしたペットボトルを入れておきます。

作戦②「パッポイ大作戦」、ゴミ箱のそばに手作りの分別方法を描いたポスターを設置し、分別に興味を持ってもらいます。

結果では、作戦②「パッポイ大作戦」の方が分別を促進することがわかりました。また、作戦①「みんなしてんで大作戦」では、異物の混入が減少したので、ペットボトル以外のものは入れてはいけないという心理に働きかけができたと考えています。

今後もこの探究活動を継続し、地域のごみ箱にも活用できたらと考えています。

Check!

※ナッジ(nudge:そっと後押しする)とは、行動科学の知見から、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチのことです。

最初はナッジのことは何も知りませんでした。が、堺市環境行動デザインチームSEEDsの方と知り合ってから興味を持ちました。

進学や就職していくうえで研究や発表をする機会が増えていくと思うので、この研究を通して得た知識や経験値を活かしたいです。



泉北高校にはナッジを利用して解決できそうな問題は多くあったため、私たち自身で実施できるナッジを行いました。

作戦① 「みんなしてんで大作戦」



みんなやっているのか!

分別することが常識だと認識してもらう

作戦② 「パッポイ大作戦」



こうやって分別するのか!

ペットボトルの分別に関心を持つ

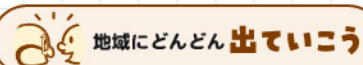
自分たちで一から新しいものを作り実際に良い結果を出せた時は、大きな達成感を得ることができて楽しかったです。

◎学校紹介

平成20(2008)年4月に大阪府立守口養護学校から大阪府立守口支援学校に改称となり、地域や関係機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達等の状況に応じた、最も適切な教育の創造をめざしています。また、高等部では卒業後の社会生活を見据えた教育課程、職業教育、進路指導に取り組んでおり、平成15(2003)年より新たに職業自立コースを設置しました。生徒の状況やニーズに応じて企業や事業所での職場実習や体験実習に取り組んでいます。



◎取組み紹介



5つのところ

いのち 生命を大切にする

思いやる

感謝する

努力する

ルールやマナーを守る

学校近隣の公衆トイレに関する調査

本校では、総合的な探究の時間に、SDGsに関する学習に取り組んでいます。高等部1年生では、今年度、17項目あるうちの6項目に取り組みました。今回、SDGs項目6「安全な水とトイレを世界中に」に着目し、メインテーマを「私たちの生活で使用されている水」としました。「上下水道」や「トイレ」に焦点をあて、グループ別で学校近隣の調査を行いました。



～フィールドワーク(調査)～

学校周辺のフィールドワークでは、公衆トイレの使用状況や問題点について調査を行いました。調査では、2カ所のトイレ(屋内)それぞれが、きれいな状態で清掃されており、地域の方々が定期的に清掃されていることがわかりました。また、トイレの周辺にたばこの吸い殻等のゴミが落ちており、利用する私たち一人ひとりのモラルが大切だと感じました。



建物や便器はきれいな状態だった。実際にトイレの利用状況を調査し、勉強になった!!

手洗いをする場所にタバコの吸い殻を捨ててはいけないと注意書きがあった。皆が気持ちよくトイレを使用するために一人ひとりのモラルが大切だと思った!!

～調査を振り返って～

今回の調査で手洗い場が故障していたり、トイレットペーパーがなかったり、設備面で課題があることがわかりました。今後は、地域コミュニティの会議で調査結果等を紹介したり、地域の方々と連携して私たちにできることを広める活動を行ったりしていきたいと考えています。



水道水が流れる手洗い場もあれば、水が流れない手洗い場もあった。定期的な設備の点検が必要だと感じた!!





© 2014 大阪府もずやん

こころの再生

検索

スマホはこちらから
アクセスできます▶



OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025



大阪府・大阪府教育委員会

「こころの再生」府民運動・企画運営委員会事務局
(大阪府教育庁教育総務企画課広報・議事グループ)

TEL 06-6941-0351 (内線 5469)